



# Weekly Market Report

Apr 17, 2023

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

イベント一服感により、ドル円は引き続き狭いレンジでの推移か。

### USD/JPY (1週間の値動き)



### コメント

先週のドル円は133円を挟んで上下1円程度の狭いレンジ内での推移。先週末に植田日銀総裁が就任会見で「日本では金利を大幅にあげる状況にない」などのハト派的発言により早期政策変更期待が後退し、週初のドル円相場は133円台半ばまで上昇してスタート。週央発表された米CPIは5.0%と予想を下回り、一時132.72円まで下落。しかし、反応は限定的で、その後のNY連銀総裁の「FRBがあと1回利上げに動くことは理に適う」とのタカ派的な発言などから133円台まで反発。週末は米銀大手 J P モルガン決算が好調であったことを受けて米長期金利が上昇、加えてウォラーFRB理事による「インフレ率は依然として高すぎる」などのタカ派発言も目立ち、ドル円は133円台後半で終了。今週は特段大きなイベントは控えておらず、狭いレンジでの動きを予想。現状、欧米の金融不安は一服しているものの、米金融機関の決算が目白押しであり、ヘッドラインには注目。(市場営業部/鈴木)

### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/18(火)	(米国) 住宅着工件数	1,400K
4/19(水)	(米国) MBA住宅ローン申請指数	-
4/20(木)	(米国) 新規失業保険申請件数	240K
4/20(木)	(米国) 中古住宅販売件数	4.5M
4/20(木)	(欧州) E C B 理事会議事要旨	-

### USD/JPY (5年間)



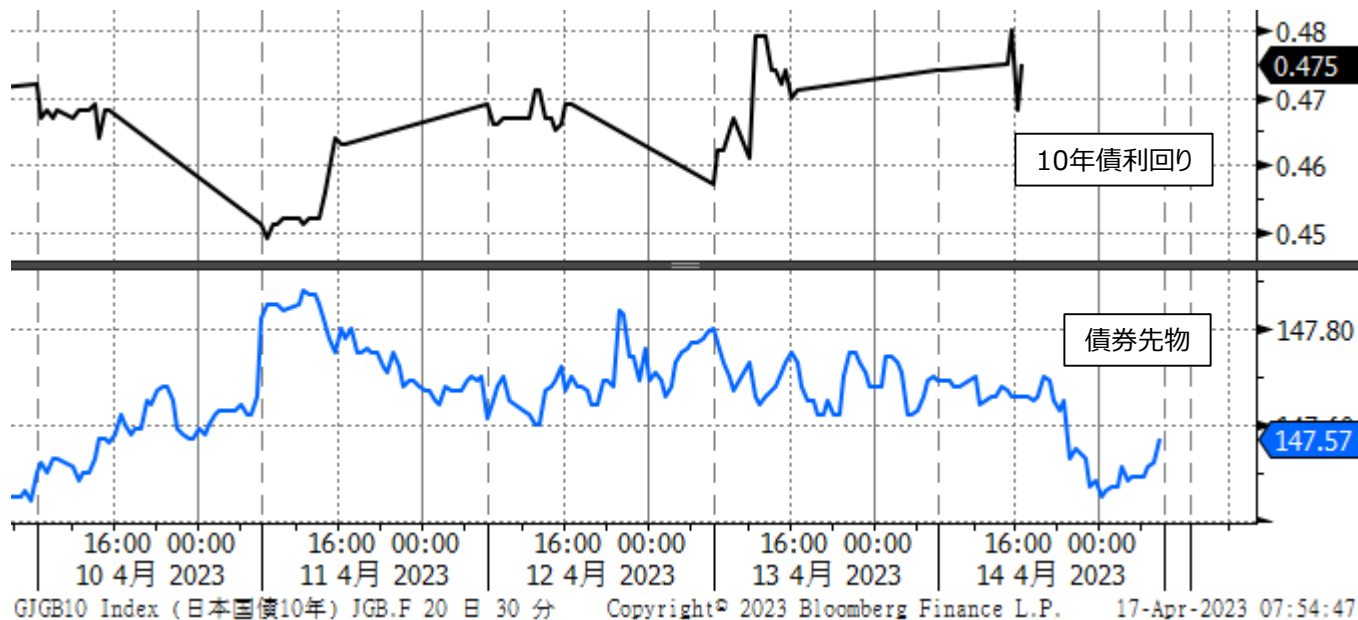
### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
山下航平	132.50 – 134.90	米インフレの鈍化傾向の中、当局者の発言に注目。一方、日銀の政策変更期待も根強くドル円は方向感出にくい展開か。
嵯峨大輝	132.50 – 135.00	先週の米当局者発言などから過度なハト派期待が後退。日銀の政策動向も警戒しながら、レンジ内での推移を予想。

## 2. 円金利相場概況

今週は全国消費者物価指数に注目。月末の日銀会合を控え、円金利の低下余地は限定的か

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



### コメント

(出所) Bloomberg

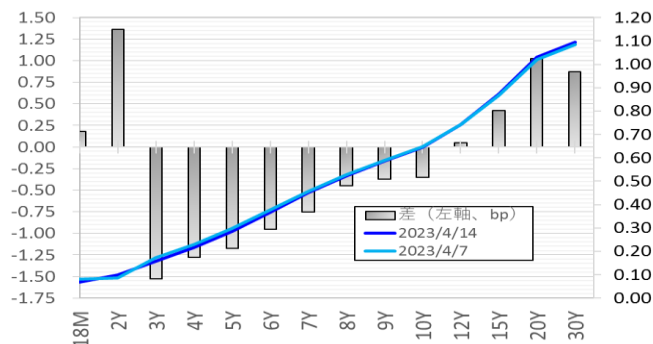
先週の10年国債金利はレンジ推移。週初は前週末の堅調な米雇用統計を受けて10年国債金利は0.47%台を回復しての開始となったが、月曜日の夕方に行われた植田日銀新総裁の就任会見において「現在のイールドカーブコントロールやマイナス金利については現行の政策を継続することが適当」との発言がなされたことで、火曜日に10年国債金利は0.45%割れまで低下。同日に実施された5年国債の入札については、平均落札金利0.157%、最高落札金利0.159%、応札倍率3.95倍、テール幅1銭と強い結果となり、日銀による金融緩和継続の見方から中短期ゾーンへの投資意欲の強さを示すかたちとなった。注目されていた水曜日の米消費者物価指数は総合が前年比+5.0%と予想を下回ったため、米金利の低下につられて10年国債金利も一時低下となったが、その後超長期債への売り圧力が強まったこともあり、0.47%台で越週している。今週は金曜日の全国消費者物価指数が注目となるが、今月末の日銀会合における政策修正の思惑もあり、10年国債金利の低下余地は限定的となりそうだ。木曜日には20年国債の入札が予定されている。(チーフ・マーケット・ストラテジスト/諸我)

### 金利スワップ変化（1週間）

(%)

### 10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



(出所) Bloomberg

### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
加藤祐樹	0.40% - 0.48%	米金融機関の決算発表が本格化する週であることから、米景気後退や金融不安の再燃には注意が必要。
伊豆浦有里恵	0.44% - 0.50%	早期のYCC修正観測は後退も、金融政策決定会合やGW中に開催されるFOMCを控え投資家の手控えムードが強まりそう。

### 3. 今週のトピックス

#### 英国経済動向

#### 英国中央銀行による金融政策とボンド相場動向

##### BOE金融政策決定概要

2023年3月22日開催された英国中央銀行（以下BOE）の理事会では、政策金利を4%から4.25%へ0.25%引き上げることが決定【図表1】。BOEは高インフレに対応するために継続利上げ中であり、利上げ幅は前回の0.5%から縮小したものの、引き上げは11会合連続となった。理事会の直前にはシリコンバレー銀行の破綻、UBSによるクレディ・スイス買収など金融市場で不安定な動きがみられたが、7対2の賛成多数で追加利上げを決定。声明文では労働市場の逼迫を背景にインフレ率、賃金の上昇圧力が見られた場合、金融引き締めが正当化されるとし、前回同様に今後の追加利上げが示唆された。一方、卸売エネルギー価格の下落を背景に今後のインフレ率が鈍化する可能性を指摘するなど利上げ打ち止めが近づいている様子も示されている。現時点での政策金利の引き上げについて、市場予想の6割が次回2023年5月の理事会でも0.25%利上げ、残り4割が現状維持、と織り込みが進んでおり、引き続き今後のインフレ動向、賃金指数指標に注目が集まる。

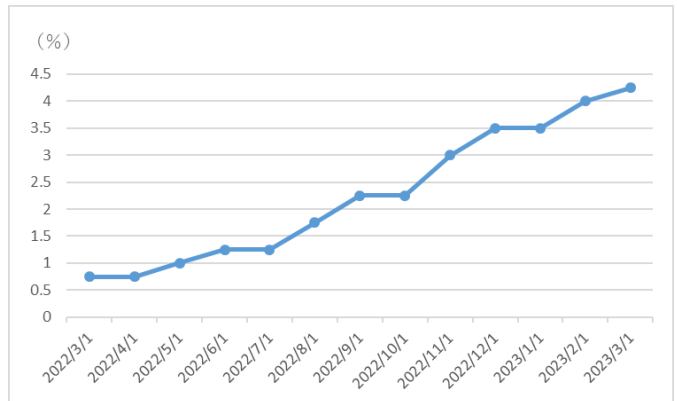
##### 英国経済動向

英国国家統計局（ONS）によると、2023年2月の消費者物価指数（以下CPI）は、前年同月比+10.4%の結果。1月のインフレ率+10.1%から0.3%上昇。昨年10月につけた11.1%から鈍化傾向にあるとはいえ、依然としてBOEの目標値である2%を大幅に上回っており、高い伸びが続いている。内訳別にみると前月に引き続き、エネルギー価格の高騰が重なり、食料関連は上昇。高インフレを受けた大幅な賃上げを求め、欧州各国ではストライキが頻発も、賃上げは需要拡大を通じて物価を即座に押し上げるとの見方もあり、引き続き今後の経済活動への影響が懸念される。

##### ボンド相場動向

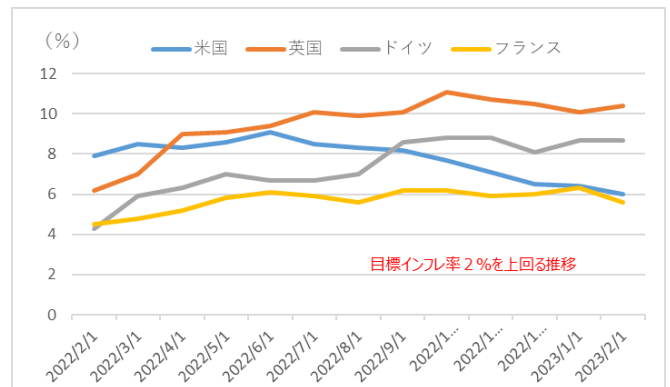
対ドルではFRBよりも早い段階で利上げに踏み切り、利下げ開始時期が意識されるも、シリコンバレー銀行破綻等金融不安が意識され、当面はボンド高圧力がかかりやすい展開を予想。一方対円では、植田新日銀総裁による大規模な金融緩和を継続方針が維持される中、4月の日銀政策決定会合にてYCCを修正する可能性は低くなっていることから当面は方向感乏しい推移を予想。高止まりするインフレについてベイリー中銀総裁は年内に鈍化すると予想しながらも経済指標での経済鈍化ペースが確認できるとボンドの売り圧力につながりやすい展開か。当面は、金融システム不安に伴う市場動向、英国のインフレ動向に注視していきたい。（市場営業部/山下）

【図1】BOEの政策金利見通し（バンクレート）



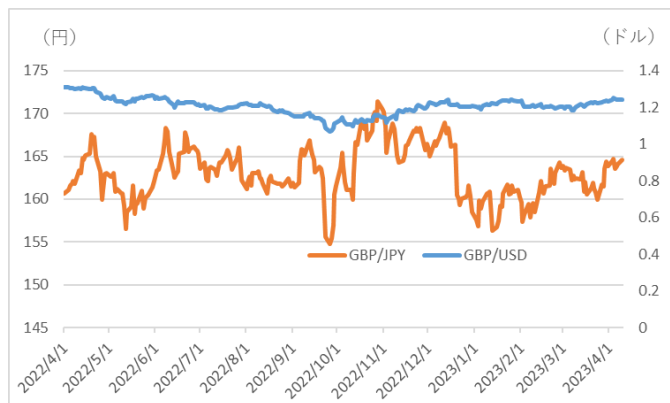
(出所：Bloomberg)

【図2】主要国の消費者物価指数（CPI）



(出所：Bloomberg)

【図3】対円、対米ドル推移



(出所：Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会